



Design

号外

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌“Design”号外3号です。表面は、11月29日（木）に開催を予定している「平成30年度第2回 地域包括ケア病棟“彩り”『事例紹介・意見交換会』」のお知らせと、今年4月21日（土）に開催した第1回のアンケート集計（一部抜粋）です。

裏面は、地域包括ケア病棟“彩り”担当医変更のお知らせです。8月から岩本副院長が兼務で老健やましろの施設長に就任されました。これに伴い、地域包括ケア病棟は、大島洋一先生に相談し、受け入れしています。

今年4月に実施した地域包括ケア病棟“彩り”『事例紹介・意見交換会』のアンケート集計（一部抜粋）を掲載させていただきます。

Q1. 内容について

とても良い16名（44%） 良い18名（50%） ちょうど良い2名（6%）

<自由記述>（一部抜粋）

- ・医療と介護の目指すゴールを意識できて良かった。イメージを変えたり伝えていくことが大切だと感じた。
- ・Drの意見が聞けて貴重な機会となった。
- ・多職種の意見交換は視点が異なり、学びが多かった。



Q2. 時間配分について

とても長い2名（5%） 長い2名（5%） ちょうど良い32名（87%）

<自由記述>（一部抜粋）

- ・グループワークが少し短いように思いました。
- ・この内容なら、この時間が適当と思います。

Q3. 地域包括ケア病棟に望むこと、地域での役割について（一部抜粋）

- ・気軽に相談できる地域包括ケア病棟であって欲しいです。
- ・地域、ケースの実情をご理解して頂いております。いつも助かっています。
- ・高齢者だけでなく、障害、小児などの分野もネットワーク構築しましょう。
- ・災害時に要介護者の受け入れをして欲しい。

平成30年度第2回 地域包括ケア病棟“彩り”『事例紹介・情報交換会』

～日常業務に活かせる“ヒント”が見つけれられるかもしれません～

日時：平成30年11月29日（木）午後2時00分～午後4時00分

会場：当院9階会議室

内容：事例紹介、ACPについての意見交換など

※ 詳細は別便でご案内します。奮ってご参加下さい。



大島 洋一 神経内科部長兼地域医療推進部副部長より



地域包括ケア病棟は、大きく2つの役割を担っています。1つ目は、急性期疾患で入院した患者さんの退院支援を目的とした急性期病棟からの受け入れ（ポストアキュート）です。2つ目は、住み慣れた地域で住み続けられることを目的とした地域からの受け入れ（サブアキュート）です。サブアキュートでは、介護者の負担軽減を目的としたレスパイト入院（2週間程度）、リハビリテーションを目的とした入院（2～3週間）、嚥下機能評価を目的とした入院（1～2週間）、自宅環境整備を目的とした入院（60日を期限）の受け入れを行っています。

これまで、患者さん（ご家族）、診療所や病院の先生方、施設の方からたくさんの問い合わせを頂いています。地域ニーズに即した地域包括ケア病棟運営を目指していますのでよろしくお願い致します。

岩本 一秀 副院長兼老健やましろ施設長より



平素より大変お世話になりありがとうございます。8月1日より介護老人保健施設やましろの施設長を兼務させていただくこととなりました。

皆様方とともに、当地の地域包括ケアシステムの構築を急がねばなりません。当老健も一定の役割を担うこととなりますが、現在行っていることとだけでは、十分な役割を果たせていないのではないかと感じています。当老健が果たすべき役割を考え、その実現に向かい邁進したく存じます。引き続きご支援、ご協力を賜りたくよろしくお願い致します。

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例（第26回）

～地域包括ケア病棟“彩り”と老健やましろが連携した例～



在宅のケアマネジャーより、ADL低下し住宅改修が必要になったため、住宅改修の期間、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れして欲しいと依頼がありました。介護施設に受け入れを打診されていたとのことですが、患者さんは在宅酸素をしておられたため、受け入れしてもらえるところがなく、ケアマネジャーは困っておられる様子でした（当院併設の老健やましろのショートステイにも受け入れを打診されていたようですが、希望の日数の調整がつかず、受け入れ困難でした）。

ケアマネジャーに病状やADLの他、希望入院期間の確認をしました。数ヶ月の入院の希望であったため、一旦、“彩り”で受け入れし、その後は、老健やましろで受け入れすることができないか、老健やましろに相談しました。施設内で相談してもらった結果、在宅酸素の患者さんの受け入れを再開し、この患者さんを受け入れしてもらう予定となりました。

“彩り”の入院までに、患者さんのADLや家屋状況の確認のため、老健やましろの担当者と共に地域医療連携室の中嶋ソーシャルワーカーが自宅訪問しました。そして数日後、“彩り”で受け入れさせて頂きました。“彩り”での入院中、老健やましろでは、在宅酸素の患者さんを受け入れするために、介護士への勉強会や在宅酸素業者との調整など受け入れ準備をし、準備が整った段階で“彩り”から老健やましろへ入所されました。8月頃より食欲低下やADL低下が見られたため、体力の回復やADLの向上を目的としてリハビリを行い、住宅改修後、12月中旬を目途に老健やましろを退所される予定です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）